

令和4年度 事業計画書		事業所名	つむぎ高梁(児童発達支援部門)	マネージャー	花巻友里恵	チームリーダー		チーフ	戸清美和子・杉本華乃	
本年度スローガン		創新 ～想いをかたちへ～								
本年度基本方針		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求		② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり		③ 成長する組織づくり				
本年度の重点取組と評価										
分野	本年度の事業所基本方針			具体的な取組内容			取組内容の評価指針			
利用者の 幸せの追求	本人支援	子どもの興味に合わせた目と手の協応動作課題の実施(AM・PM) 自立して課題に取り組める環境や興味関心にあわせた課題の充実(PM)		①療育実践発表に向けた微細運動力の向上への取り組み(AM・PM) ②自己肯定感の獲得に向けた自立課題への取り組み(PM) ③巡回相談の実施(6月28日)			①個別活動にて目と手の協応動作課題に取り組み、微細運動力の向上を目指す (参考文献:TEACCH幼児教育カリキュラムガイド・指遊び・手遊び・腕遊び) ②子どもの興味関心に沿った課題を月に2つ以上作成する ③巡回相談を受けて事業所の構造化や支援について検討し、改善を行う			
	家族支援	保護者同士がつながる機会の充実 療育支援への興味もちやすい環境設定		①親子活動の実施(月1回) ②保護者座談会の実施(2カ月に1回) ③相談支援ファイル講座の実施(6月1日、12月7日)			①季節や利用児の興味関心に沿った活動を計画し、5組以上の参加を目指す ②保護者の関心に沿った話題提供を行う。保護者が積極的に話せる機会をつくり、5名以上の参加を目指す。 ③相談支援ファイル作成をきっかけに保護者が気持ちを整理することや思いを話すことが出来る状況作りを行う			
	地域支援	関係機関と協力して支援を検討できる信頼関係の構築		①保育所等訪問の実施(2か月に1回) ②スクラム会議へ参加し、評価に基づいた子どもの特性や様子の報告を行う			①子どもの様子を確認し、支援状況を共有できる関係の構築を目指す ②評価や子どもの様子をもとに課題と成長を整理した状況報告メモの作成			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	学んだ知識を実践で活かせる環境作り		①支援会議の実施(月1回)とヒヤリハット検討、支援計画の共有等 ②職員学習会(毎月)への参加、事例の提供による事例検討の実施(1月21日)			①チーム内で支援を見直し更新していくための情報共有の場を目指す ②新たな学びを受けて支援の質の向上を図る、他事業所の意見を受けて支援を検討する			
	信頼と共感の持てる職場づくり	相談がしやすく、一人ひとりが役割をもってとくめる職場づくり		①目標管理と人事考課の実施 ②支援会議にて職員の良いところ・子どもの成長を感じたところの発表(月1回)			①事業計画に基づいて目標を設定し、実施・振り返りを受けて課題と成長を共有する ②チームで課題のみでなく、子どもの成長や互いのよい姿を共有しあえる関係を目指す			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	保護者意見をもとにより良い方法を検討できる仕組みの構築		①継続的改善活動の実施と検討 ②保護者アンケート・事業所向け自己評価の実施 ③安全・衛生点検チェック(月1回)と構造化の見直し(2か月に1回)の実施			①継続的改善活動を通して支援や環境の整理をチームで行える仕組みを作る ②保護者アンケートをふまえた支援の見直しによる、保護者満足度の向上を目指す (1日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができていくか)等の保護者への説明の項目について95%以上) ③気持ちのよい環境作りを目指し、点検時以外にも職員が環境を見直せる意識作りを行う			
	組織の透明性	保護者や地域に興味をもっていただける情報の提供 ※支援を公開する場を定期的に設ける		①公開療育の実施(7月、1月) ②療育参観の実施(毎月1週間) ③フェイスブックの積極的な活用につなげる情報提供の実施(週1回)			①公開療育を受けて支援や構造化を検討し改善する ②療育参観を実施し、保護者と活動や子どもの様子を共有する ③保護者や関係機関に興味を持ってもらえる記事の作成を行う			
分野	評点	評価指針の達成度及び取り組み状況				次年度の重点課題				
利用者の 幸せの追求	本人支援	4	①療育実践発表にて審操作向上に向けた取り組みの発表を実施。微細運動面の向上に向けた取り組みを個別活動にて実践した。 ②自立課題を20種類以上作成した。子どもに合わせた課題量を評価し、自立活動にて実践した。 ③巡回先生より助言をいただき、環境設定を見直した。				微細運動面の基礎となる、粗大運動面の向上に向けた支援の構築を図る。 自立活動の取り組みから把握した子どもの注目できる環境設定をもとに集団遊びに取り組む為の手立てを整備する。			
	家族支援	2	①親子活動では3家族程度の申し込みがあった。 ②保護者座談会では参加のない回が多くあった。 ③参加はあったが、人数が少なく保護者同士で思いを話したり共有したりすることが難しかった。				親子活動にて様子を共有したい保護者へ参加の声を積極的に実施する。 参加しやすい日程や曜日の選定を検討することや話題を設定することにより、参加者を確保する。			
	地域支援	4	①保育所等訪問支援では園より支援の方向性について共有したいという要望を受ける機会が増えた。 ②会議への参加では評価に基づいた様子の報告を行った。(チーフ以上)				訪問支援での様子をもとに園の流れに沿った支援を検討し、実施する。 様々な職員が事前準備を行った上で保護者や関係機関に児の様子を報告できる仕組みを構築する。			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	3	①支援会議内でヒヤリの検討は実施できなかったが、ストラテジーシートをもとに支援について職員間で意見を出し合い検討した。 ②学習会での事例検討ではそれぞれの職員が自身の考えを出すことができた。				支援会議にて各職員が意見を出せるような仕組みやテーマを検討し実施する。 職員学習会にてまずはチームで話し合った内容を他事業所の職員に報告する経験を積める仕組みを構築する。			
	信頼と共感の持てる職場づくり	4	①目標管理や人事考課を実施した。 ②支援会議にて職員や利用児の良い姿や成長を各職員が積極的に発表した。(良い姿に目を向けることができた)				各職員が自分が目指したい姿をイメージして支援を実践する。 成長やできていることに目を向け、相手に伝えられる関係を構築する。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	3	①ヒヤリ書きの積極的な活用を実践した。 ②保護者アンケートを受け、環境や申し送り等の仕組みを再検討した。 ③より過ごしやすいいわゆるわかりやすい環境を職員が意識し、定期的に見直しを行った。				ヒヤリ事例を受けて、要因や対応についてチームで検討する時間を設定する。			
	組織の透明性	3	①公開療育を実施し、構造や支援の再構築を図った。 ②療育参観には毎月3組以上の参加があった。 ③フェイスブック記事内容を月ごとに決めて記事の作成を実施した。				保護者がより関心をもてるよう募集の通信内容を検討する。			

○評点は次のとおりとする。・5目標を達成することができた ・4おおむね目標を達成することができた ・3どちらかといえば目標を達成できなかった ・2どちらかといえば目標を達成できなかった ・1目標を達成できなかった

令和4年度 事業計画書		事業所名	つむぎ高梁(放課後等デイサービス部門)	マネージャー	花巻友里恵	チームリーダー		チーフ	勝部瑞希	
本年度スローガン		革新 ～想いをかたちへ～								
本年度基本方針		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求 ② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり ③ 成長する組織づくり								
本年度の重点取組と評価										
分野	本年度の事業所基本方針	具体的な取組内容				取組内容の評価指針				
利用者の 幸せの追求	本人支援	子どもたちの自己効力感を育む構造化支援の充実 子どもたちが苦手としている発達課題の充実	①個別化した構造化の実践 ②視覚的指示、視覚的組織化、視覚的明瞭化の3つのポイントを意識した自立課題の作成 ③太田ステージ評価による、系統立てた支援の実践。多角的な視点を持ちにくい子どもへの課題設定。(文献候補1:発達支援と教材教具 子どもに学ぶ学習の系統性、文献候補2:子どもの心の世界がみえる太田ステージを通じた発達支援の展開) ④行動障害を防ぐための予防的支援の充実。				①個別化した構造化の検討と再構造化の実施(その都度実施、支援会議にて確認) ②自立課題を作成(月4課題以上) ※作成者は課題のねらいと取り組みを説明できるようになる。 ③太田ステージIV-2の未達成の子どもへの課題の充実と評価の達成を目指す。 ④問題行動の記録を取り、具体的な予防的支援をチームで検討する(支援会議毎に少なくとも一ケース実施)			
	家族支援	家庭での困りごとに寄り添った支援の充実	①療育参観により、保護者につむぎでの具体的な取り組みを知ってもらう。(毎月) ②事業所内相談支援の充実				①療育参観 10名/月 ②事業所内相談 2名/月 ※共通評価指針 家庭での困りごとを出発点とした構造化の支援を実施し、子どもが必要とする支援を保護者に提案し、構造化の取り組みを共有していく。			
	地域支援	多様な子どもへの支援や家族支援を地域で支えていくことができる役割の充実	①ケース会議、保育所等訪問支援、スクラム会議、保護者面談を通して、家庭全体の状況を把握して適切な支援を実施する。 ②つむぎサークルの活動の充実				①会議で得ることができた情報を踏まえて、求められている支援を組み立てて実施する。 ※少なくとも一課題/ケース会議毎 ②子ども食堂開設に向けた取り組みと合同クリスマス会の実施 ※毎回16名の参加を確保する			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	学んだ知識を活かした支援の実践と充実	①支援会議の実施(月1回)ヒヤリハット検討、スケジュールの個別化について協議、支援計画の共有 ②職員学習会(毎月)への参加、事例の提供による事例検討の実施(7月16日)				①ヒヤリハット、苦情要望についてのチーム検討と実施内容の役割分担を行いチームでの解決を目指す。 ②学習会で学んだ知識を活かす支援の検討と実施。			
	信頼と共感の持てる職場づくり	チームの目標や課題を共有し、お互いを尊重しながら働けるチームづくり	①目標管理と人事考課の実施 ②接遇チェックシートの活用 ③連絡会における報連相の充実。そのための書式作成と活用				①半期ごとの振り返りにより成長と課題を共有し、日々の仕事に前向きに取り組める。 ②接遇チェックシートにて振り返り(毎月) ③書式を活用して、適切な報連相の実施ができる。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	利用者、保護者の声を反映したよりよい療育環境の構築	①継続的改善活動の実施と検討 ②保護者アンケート・事業所向け自己評価の実施 ③安全・衛生点検チェック(月1回)と構造化の見直し(2か月に1回)の実施				①継続的改善活動を通して支援や環境の整理をチームで実践する仕組みを作る(連絡会の都度必要に応じて協議する) ②保護者アンケートをふまえた支援の見直しによる、保護者満足度の向上を目指す(保護者への説明等の項目について95%以上) ③汚れが目立つ部分の清掃(月1回)			
	組織の透明性	SNSの活用による幅広い事業内容の公開	①公開療育の実施(5月、11月) ②療育参観の実施(毎月1週間) ③フェイスブックの積極的活用につなげる情報提供の実施(週1回)				①他事業所職員に環境や支援を見ていただき、チームで課題を共有するとともに1か月以内に実施する。 ②保護者と一緒に場や時間を共有することで、児の成長や課題を共有する。月に10名以上の参観を目指す。 ③年間の記事内容表を作成し、担当者は作成内容を把握して準備する。(毎週)			
分野	評点	評価指針の達成度及び取り組み状況				次年度の重点課題				
利用者の 幸せの追求	本人支援	3	①運営の流れにあわせた大きな構造化の見直しを10月に実施した。 ②自立課題は太田ステージやNCプログラム、子どもの自立に向けた課題を作成している。 ③子どもに合わせた課題の作成を実施した。 ④スケジュールや活動・課題の組み立てにより問題行動が減少した。				子どもたちの活動の動線に応じた構造化を検討・実施する。 各職員が子どもたちの行動の要因を検討できる仕組みを構築する。			
	家族支援	3	①療育参観への参加は5月までに3件となった。 ②事業所内相談の希望が2か月に1回程度保護者よりあがっている。				活動に関心をもっていただけの広報の在り方を検討する。 保護者と取り組みの結果だけでなく、意図を共有できる仕組みを構築する。			
	地域支援	3	①ケース会議への参加により学校の様子や関係機関の認識を把握した。 ②コロナウイルスによる制限はあったが様々な活動を立案した。				子どもたちの関心を引きつつ、人との関わりの構築や自立に向けた取り組みができる活動を検討する。			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	3	①支援会議での検討はできなかったが、児に応じたスケジュールを検討・実施した。 ②学習会での事例検討にて他事業所より意見を受けたものを支援に組み込んで実施した。				ヒヤリハットの書式を活用し、生じた出来事の原因について振り返り検討したりする仕組みを構築する。			
	信頼と共感の持てる職場づくり	2	①目標管理と人事考課の実施。 ②運営や保護者とのやりとりについて基礎から見直しを実施した。 ③連絡会は実施できにくかったが、必要な情報はwawaを活用して共有した。				目指す自分をイメージして支援に臨める体制を作る。 情報を共有する仕組みを構築する。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	3	①ヒヤリハット書式を積極的に活用できるよう情報を共有した。 ②保護者アンケートを実施し、保護者との申し送りのあり方を検討した。 ③より過ごしやすしい・より分かりやすい環境を意識し定期的に見直しを実施した。				ヒヤリ事例を受けて、要因や対応についてチームで検討する時間を設定する。			
	組織の透明性	3	①公開療育を受けて環境設定や運営の見直しを実施した。 ②療育参観への参加は5月までに3件となった。 ③フェイスブック記事内容を月ごとに決めて記事の作成を実施した。				保護者がより関心をもてるよう募集の通信内容を検討する。			

○評点は次のとおりとする。・5目標を達成することができた ・4おおむね目標を達成することができた ・3どちらかといえば目標を達成できた ・2どちらかといえば目標を達成できなかった ・1目標を達成できなかった

令和4年度 事業計画書		事業所名	つむぎ吉備中央	つむぎ大和	マネージャー	花巻優樹	チームリーダー	チーフ	佐々木麻衣・山崎裕	
本年度スローガン		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求      ② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり      ③ 成長する組織づくり								
本年度基本方針		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求      ② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり      ③ 成長する組織づくり								
本年度の重点取組と評価										
分野	本年度の事業所基本方針				具体的な取組内容			取組内容の評価指標		
利用者の 幸せの追求	本人支援	就学後につながる、書く力の実践と評価の取り組み(吉備中央) 内外に存在するイライラや不安を自分でコントロールする実践と評価の取り組み(大和)				①療育実践発表に向けた、書く力の実践と評価(吉備中央) ②療育実践発表に向けた、アンガーマネジメントに関する個別ワークの実践(大和) ③スキルアップ研修の実施(諏訪先生:6,9月(吉備中央)7,10月(大和)) ④学童クリスマス会の実施(12月17日)※つむぎ高梁 放デイ・つむぎ落合 共同開催			①文字を枠内に書く教材を使用し、NCプログラム評価にて50文字の書字の達成を目指す(文献:発達に気になる子への読み書き指導とはじめ) ②怒りや不安への見方や捉え方について実践、評価する(文献:子ども認知行動療法怒り・イライラを自分でコントロールする!) ③自立ワーク、アンガーマネジメントについて助言をいただき、より良い支援を構築する ④学童クリスマス会の実施(参加人数10名以上)	
	家族支援	保護者が療育や特性について体験し、我が子の必要な支援を考える機会の提供 保護者同士がつながっていく機会の充実				①事業所内相談の保護者への周知と依頼を受けての実施 ②親子で楽しめるプレ療育「たんぼ教室」の実施(火、金) ③つむぎ座談会in吉備中央の実施(4月:SST体験、6月:アンガーマネジメント、10月:自立ワーク作り、12月:微細操作、2月:切り替え)			①つむぎ通信を通して月に1回の案内、掲示。(月5件の相談支援の実施) ②年間を通した具体的な支援体制を整備し、年間12名の契約を目指す ③体験する機会、作成する機会を提供し、平均3名の参加を目指す	
	地域支援	地域から信頼され、地域福祉の中で必要とされる支援体制の整備				①保育所等訪問支援の実施(吉備中央:1/月、大和:1/学期) ②相談支援ファイル「はぐくみファイル」を書く会の運営(5月23日、11月21日) ③要観察教室への参加(火/月) ④プレ子ども食堂の参加(第3土曜)			①関係機関との特性・必要な支援の情報共有を実施し、質問を受ける(毎回) ②相談支援ファイル検討委員会と協同し、平均10名の参加を目指す ③要観察教室を通して他機関との情報共有、参加家族とコミュニケーションを図る ④プレ子ども食堂での役割を担い、必要な支援体制を検討する	
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	各職員がPDCAサイクルに沿った支援実践、業務遂行の実践し、想いを発信できる 職場環境の整理				①キャリアパス制度を通した目標管理と人事考課の実施 ②職員学習会へ参加し、スキルアップ研修、ケース検討を担当実施する(8月、12月を除く第3土曜) ③職員ケース会議の実施(1/月)			①事業計画に則った目標管理の作成と各職員のPDCAサイクルの実施 ②知識と実践を組み合わせ、具体的に支援に活かす学習会の学びの実施 ③ケース検討(チーフ)、プラン説明(TL)、文献紹介(スタッフ)を行い、意見を要約し、発信する機会の提供	
	信頼と共感の持てる職場づくり	お互いを尊重、信頼し、相手の立場に立った視点を持ったチーム作り				①気持ちの良い挨拶 ②昼礼の実施(1週目:マニュアル読み合わせ、2週目:自立ワーク作成状況、3週目:児や職員の良点共有、4週目:児や職員の課題) ③保護者を含めた職員親睦会の実施(5月14日)			①職員間、外部機関、保護者との目線を合わせた挨拶 ②各週毎の実施状況の確認 ③保護者と職員が想いを共有できる目的のある会の運営	
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	チーム内での共通した意識の元、危機への対応準備の実施				①危機管理委員会の充実と実施(安全衛生点検1/月、車両点検1/月、避難訓練1/月、虐待研修4月16日) ②保護者向けアンケート・事業所向け自己評価の実施(1/年) ③自己点検の実施(5月)			①危機管理委員会に則り、定期的な点検、訓練、研修の実施 ②保護者アンケートの返却率70%を目指す ③自己点検にて、全項目「適している」へチェックできるよう、整備を行う	
	組織の透明性	療育現場を公開し、多くのより透明性の高い療育現場へ 地域では愛育委員会やシルバー人材センターと連携した活動の構築 イベントを通したつむぎの理解啓発活動の実施				①療育参観の実施(8月を除く毎月1週間) ②公開療育の実施(9,12月:吉備中央)(4月10日:大和) ③吉備中央さん祭り、うかん風ぐるまフェスタの運営、実施 ④つむぎ吉備中央の環境整備の実施(保護者、愛育委員、シルバー人材センター:4月、10月)			①保護者が参加しやすい環境設定を行い、3名/療育参観週間の参加を目指す ②公開療育で受けた改善点をチームで検討し、1か月以内に再試行する ③各行事の実施、運営を行うが、状況によってはつむぎ内での秋祭りを検討する ④各機関との環境整備の場を設け、落ち葉や雑草に関する環境美化の実施	
分野	評価	評価指標の達成度及び取り組み状況				次年度の重点課題				
利用者の 幸せの追求	本人支援	4	①療育実践報告では書く力の実践と評価を報告し、複数名の必要な子どもへの書字支援を実践した。 ②アンガーマネジメント課題では、イライラや不安の強い高学年を対象にアンガーマネジメント支援を実践した。 ③スキルアップ研修は諏訪先生より児童発達支援、放課後等デイサービス共に助言をいただいた。 ④学童クリスマス会を実施し、クリスマスならではの行事を実施した。				書く力の実践を受け、読む力への向上に向けて支援の構築を行う。 発音不明瞭な子どもや年少以下の発語指導について支援を整備を行う。			
	家族支援	3	①事業所内相談では現在の評価や今後の課題、ご家庭での困りごとなど、様々な相談対応を行った。 ②親子プレ療育を金曜日に実施し、令和5年度より町の発達支援教室として親子療育がスタートする。 ③つむぎ座談会in吉備中央を実施し、アンガーマネジメントや微細操作への参加があり、体験型の座談会を実施できた。				事業所内相談では「ケース会議の報告」に沿った保護者に分かりやすい説明の実施を行う。 親子療育「たんぼ教室」を実施し、地域の低年齢の親子療育の実践を行う。			
	地域支援	4	①保育所等訪問では特性について情報共有を行い、関係機関より具体的な質問も増加した。 ②はぐくみファイルを書く会を実施し、普及啓発活動に貢献した。 ③要観察教室に参画し、子育てに悩む保護者や子どもへの支援を実施した。 ④プレ子ども食堂へ参画し、各職員が支援を実施した。				はぐくみファイルの書く会をおしゃべりほっとサークルとして実施し、つむぎで座談会として整理を行う。 要観察教室では地域で揺れ動く保護者の心情を捉え、つむぎの療育利用へのつながりに向けた実践を行う。			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	3	①キャリアパス制度を活用し、目標管理や人事考課を実施した。 ②、③職員学習会、ケース会議を実施し、特性理解や職員の発言機会を大切にしたい学びを実践した。				目標管理と事業計画がリンクした実践を各職員が実施する。 氷山モデルを活用し、各職員が自ら支援の整理や発言ができる学びや機会を保障する。			
	信頼と共感の持てる職場づくり	3	①各職員気持ちの良い挨拶を実施した。 ②連絡会では情報共有を大切に実施したが、長期休みでの連絡会の実施には課題がある。 ③保護者を含めた親睦会はコロナウイルスの感染拡大の為、中止とした。				連絡会は子ども、保護者、所属機関、運営情報を共有できる機会を実施する。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	3	①危機管理委員会に則り、定期的なケンケンや研修を実施した。 ②保護者向けアンケートを受け、環境整備などを実施した。 ③自己点検を行い、支援状況を確認を実施した。				危険に対して予測力や対応策を各職員が提案できるヒヤリハット連絡会の実施を行う。			
	組織の透明性	3	①療育参観を実施し、幼児期の参加が見られた。 ②公開療育を実施し、構造化等、再試行を行った。 ③地域の秋祭り等への参加は未達成である。しかし、ゴルフ大会など地域とのふれあいサポート事業を実施した。 ④愛育委員と協働し、環境美化を年2回実施した。				つながりサポート事業や環境整備を通して、保護者、地域、職員間での関係を深める。			

○評価は次のとおりとする。・5目標を達成することができた ・4おおむね目標を達成することができた ・3どちらかといえば目標を達成できた ・2どちらかといえば目標を達成できなかった ・1目標を達成できなかった

令和4年度 事業計画書		事業所名	つむぎ落合	マネージャー	佐分利真夕	チームリーダー	岩山祐貴	チーフ	藤原泉	
本年度スローガン		革新 ～想いをかたちへ～								
本年度基本方針		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求		② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり			③ 成長する組織づくり			
本年度の重点取組と評価										
分野	本年度の事業所基本方針			具体的な取組内容			取組内容の評価指針			
利用者の 幸せの追求	本人支援	社会性向上に向けた、学齢後期の療育カリキュラムの充実 子どもの特性に応じたスケジュール設定を基盤とし、期待できる見通しを持って活動できる興味関心をもとにした自立課題の充実		①実践療育発表に向けた、中高生対象自立活動の実践の取り組み(水曜日実践) ②見通しを持って活動できる個別スケジュールの取り組み ③巡回相談の実施(11月)			①中高生が、活動を構造化し、集団で自立的に貢献活動に取り組めるカリキュラムを構築し、自己肯定感向上と社会性の向上を目指す。 ②子どもがスケジュール活用に課題が生じた際には、アセスメントし個別化の改善を都度行う。 ③巡回相談から得られた必要な支援や構造化の情報を活かし、改善する。			
	家族支援	家庭内の支援に繋がる情報提供の充実		①ハッピーサークル活動保護者座談会の実施(1回/2か月) ②事業所内相談の充実(随時)			①家庭での困りごとに沿った企画を検討し、家庭に持ち帰り、実践に繋がる情報提供を行う。 ②通信での情報提供に加え、申し送り時にも情報提供を適宜行い、更新の面談を除き月3件の事業所内相談実施を目指す			
	地域支援	関係機関の役割を意図して、必要な支援を検討できる協力関係の構築 地域の中に交流の機会が持てる場所の基盤を整える		①保育所等訪問支援の実施(学期に1回) ②スクラム会議の中で、療育内の評価情報を活用し、根拠に基づき様子の報告を行う。 ③プレ子ども食堂、学習支援、体験教室の開設 ※毎月第3土曜日予定			①子どもの状況を整理して訪問し、評価に基づき様子の見立てを伝える。定期的な要望の訪問の受け入れ等もスムーズに応じてもらえる状況を目指す。 ②通信での情報提供に加え、申し送り時にも情報提供を適宜行い、更新の面談を除き月3件の事業所内相談実施を目指す。 ③プレ子ども食堂、学習支援、体験教室の実施(毎月第3土曜日)に実施。活動実施毎に課題点を確認し、事業の質の向上に繋げる。			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	療育実践の発展を実感できる環境作りの実施		①支援会議の実施(月1回) ②職員学習会への参加※毎月第3土曜日 8月と12月は除く			①チーム内で支援の課題を共有し、意見を出し合い情報の共有をできる場の構築 ②学んだ情報を事業所の支援にどのように生かすのか、共有する仕組みを構築し、取り組みをアップデートできるチーム作りを実施。(学習会翌週の昼礼にて、実施する)			
	信頼と共感の持てる職場づくり	日常のコミュニケーションを大切にできる職場作りの実施		①目標管理と人事考課の実施 ②昼礼にて、スタッフ支援の良い所の伝えあいを実施(週1回)			①目標設定を評価の見通しも含めて考えて設定を行い、自身の変化が体感できる出発点を作る。振り返りの中で、自身の成長を感じられるフィードバックの実施。 ②日頃からお互いを意識し合える習慣を整え、良い所を恥ずかしくも、毎回相手に良い所を5項目伝えることができる昼礼とする。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	チームで考える環境づくりの体制を整える		①継続的改善活動の実施の充実 ②保護者アンケート・事業所向け自己評価の実施 ③安全点検チェック(月1回)と構造化の見直し(2カ月に1回)の実施 ④自主点検の実施			①継続的改善活動を通じた環境の整理、改善の実施。ヒヤリハットの積極的な活用から事業所全体の取り組みをチームで意識し ②保護者向けアンケートの実施と自己評価の実践を踏まえた、療育支援、事業の取り組みの見直しを実施 ③安全点検チェックの実施と事業所での必要カ所の修繕と構造化を実施 ④自主点検を通して事業内容と運営の見直しの実施			
	組織の透明性	支援の実態を保護者が見れる、知れる環境の構築 関係機関や保護者が活かせる情報提供の実施		①公開療育の実施(6月、12月) ②療育参観の実施 毎月1週間 ※8月を除く ③フェイスブックの記事の更新(週1回)			①公開療育を受けて、支援環境の改善を実施。 ②療育参観を実施し、保護者と児の成長や必要な支援を共有する。 ③前掲な文章構成と写真で見せるフェイスブック記事の工夫を意識し、関心を持ちやすく実施したいと思える情報提供の実施。			
分野	評点	評価指針の達成度及び取り組み状況				次年度の重点課題				
利用者の 幸せの追求	本人支援	2	①療育実践発表は未実施の状況。事業所の利用児の実態に応じて療育環境の整備を重点的に実施。取り組み内容の選定が不十分であった。 ②個々のスケジュールは、整理されてきているが時に必要な情報がスケジュールに反映されていない為、見通しが持ちにくい環境も継続して見られている。アセスメントを大切にしながら環境設定を継続して実施したい。 ③巡回相談を受け、構造化の見直しに取り組みすることができた。				個々の療育支援計画をチーム内で共有し、共通した支援方針に基づいた支援の構築。支援の意図を明確にした構造化の構築。			
	家族支援	3	①不登校支援の座談会に1ケース参加があった。その他の座談会への参加希望はない状況であった。 ②個別に相談を受けるケースは、増えてきている状況。月3件の実施は達成している。				「ケース会議の報告」の流れを活用し、保護者に対し生活全般を含めたわかりやすい説明の実施を整える。 学習会や療育参観の発信の工夫を行い機会への関心を広げ、保護者とコミュニケーションを図る環境の構築。			
	地域支援	3	①保育所等訪問に関して、実施目標件数は達成。コロナの影響もあり、ケースによって学期に1回の訪問が未実施の期間が1件あった。 ②学校よりスクラムの要望を受けるケースが増えた。各機関の役割を意図した連携をもとに家族支援に活かしていきたい。 ③4月～12月の期間、月に1回のプレ食堂を実施。1月～3月子ども食堂として月1回実施。活動の実施の流れは定着してきている。次年度より新たな活動の枠組みも取り入れられるため、実施毎に課題を抽出し、改善を継続して行っていく。				保育所等訪問時に子どもに必要な配慮等様子を共有することを大切にしつむぎへの支援に繋げていく。支援から得られた情報を上手に共有し、充実した連携に繋げていく。			
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	2	①月1回の支援会議実施は達成。利用時の情報共有に関して、実施はしているが、意見を出し合える枠組みに不十分さがあった。氷山モデル等活用した見立ての意見を出し合える共有手段の検討が必要。有。 ②職員学習会への参加達成。学習会での担当役割				支援会議、連絡会を通してきめ細かな情報共有を実施する。子ども、家庭、学校、生活での様子等気づきを共有する中で、子どもを取り巻く環境に必要な支援の構築に繋げる。			
	信頼と共感の持てる職場づくり	3	①目標管理の実施、フィードバック実施済み。課題達成の在り方を見通した設定に不十分さが継続して生じていた。 ②定期的な実施ができていなかった。				事業計画に基づいた目標管理を設定し、各スタッフが達成を感じられる取り組みを実施。 学習会や連絡会、実践発表を通して、氷山モデル等を活用したケース検討から実践に繋げる力をつける。			
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	2	①ヒヤリハットの積極的な活用が不十分であった。各自が改善意識を持って、ケース検討の機会へと繋げていく。 ②保護者アンケート・事業所向け自己評価実施達成。保護者アンケート回収率に課題あり。 ③安全点検チェックに関して、未実施の月が生じていた。構造化に関して、公開療育・巡回相談の機会に改善を実施。 ④自主点検実施達成。				ヒヤリハットの積極的な活用を通して、ケース検討を行うことにより、児に必要な事前の対応を整える仕組みを構築する。			
	組織の透明性	3	①公開療育実施達成。構造化、運営の在り方に関して改善を実施。 ②療育参観に関して、4月、5月のみの参加となっており、未達成の状況。保護者に対し、関心を広げていく必要性有。 ③週1回の記事の更新達成。スタッフの顔が見える記事に対する「いいね」の件数が多い傾向が見られた。				保護者に対し、申し送り時等を活用し保護者に対し直接的に情報を投げかけることにより、ハッピーサークルや療育参観の認知を広める。日頃の困り感の聞き取りや日常の生活の様子を把握するやりとりを意識して発信内容とリンクする情報収集にも工夫する。			

○評点は次のとおりとする。・5目標を達成することができた ・4おおむね目標を達成することができた ・3どちらかといえば目標を達成できた ・2どちらかといえば目標を達成できなかった ・1目標を達成できなかった

令和4年度 事業計画書		事業所名	発達・相談支援センターつむぎ/法人事務局	ジェネラルマネージャー	佐分利尚孝	マネージャー	佐分利真夕	
本年度スローガン		創新 ～想いをかたち～						
本年度基本方針		① 実践を通して共に学ぶ・共に成長する発達支援の追求		② 自分自身の成長や貢献を実感できる職場づくり		③ 成長する組織づくり		
本年度の重点取組と評価								
分野	本年度の事業所基本方針		具体的な取組内容			取組内容の評価指針		
利用者の 幸せの追求	本人支援	多様なニーズに幅広く対応できる相談支援を行います。	①高梁市における基本相談の実施 ※必要に応じて ②吉備中央町における巡回相談の実施 ※1回/学期（今年度より小中学校含む）			①②困った行動の背景にある子どもの困りごとを一緒に見立てることができる支援を心掛けていく。又、見立てられたことを実践し振り返ることができるカンファレンスを心掛ける。		
	家族支援	ご家族のニーズに適した支援を、柔軟かつ迅速に行います。	①ペアレント・トレーニングの実施 ※状況をみていきながらふれあいペアレント・トレーニングの実施を検討 ②就学に関する学習会の開催 ※今年度よりつむぎの放デイの情報提供を実施する ③座談会へのオブザーバー参加 ※必要に応じて 特になし登校のお子さんを育てる保護者支援 ④保護者親睦会の実施 未定 ⑤利用者自己負担金の管理徹底。			①ペアレント・トレーニングで我が子の子育てについて学ぶことができた実感を保障していく。※アンケートの実施 ②アンケートを実施し、今後の会のあり方に活かしていく。 ③保護者同士のつながりを構築。※不登校のお子さんを育てる保護者がつながれる場を醸成する。 ④保護者（未納・滞納の場合）への働きかけの仕組みを作る。		
	地域支援	地域にある課題を整理しその解決に努めます。	①たかはし障害者総合相談センターの機能強化 ②高梁市、吉備中央町における発達支援体制の評価と見直し ③地域の課題を見据えた講演会の実施 ※高梁市、吉備中央町 1回/年 ④プレ子ども食堂の開設 ⑤地域への効果的な情報発信の実施 ※研修会、座談会、年賀、祝電等			①高梁市における相談支援のあり方を検討する。 ②自立支援協議会を中心として問題提起を行う。※高梁市 スクラム会議、相談支援ファイルのあり方について ※吉備中央町 プレ療育、相談支援ファイルのあり方について ③地域課題に基づいた講演会の実施 ④子ども食堂の開設を見据えた活動の実施 ⑤多様な情報発信手段の活用（line、mail、紙媒体など）の見直し		
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	知識をアップデートしていくとともに、その専門性を活かした、相談者一人ひとりのニーズに適した支援を行います。	①職員学習会における事例検討・情報提供 ②キャリアパス制度の推進 キャリアパス規定に基づいて計画的に実施			①つむぎ職員のスキルアップを目指し、職員の定着化を図る ②目標管理活動の充実。療育スキルアップに関する補助金の確保。		
	信頼と共感の持てる職場づくり		①連絡会の実施 毎週水曜日実施			①職員同士の情報共有を図るとともに、困難事例についてはチームで支援することの体制を整備する。		
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動		①危機管理委員会の充実 ※戦略会議にて協議 ②意見、苦情、要望書の積極的活用 ※戦略会議にて協議 ③つむぎ高梁駐車場整備に向けて			①必要に応じてマニュアルの見直しを実施 ②継続的改善の実施 ③補助金リサーチと申請実施。		
	組織の透明性	問題や課題から学び成長する組織を目指します。	①SNSの積極的・有効活用（フェイスブック・line：法人アカウント運営によりハッピー通信の発信） ②仮名 発達支援ネットワーク岡山の開設に向けて ③新人（大卒、高卒）スタッフの確保 ※大学・地元高校への求人活動や就職セミナーへの参加			①組織の透明性の確保と保護者への積極的な情報提供の推進 ②講演会の告知を療育機関にも行い、会の必要性の有無について投げかけてみる。 ③令和5年度希望採用人数（大卒2名、高卒2名程度）		
分野	評点	評価指針の達成度及び取組状況			次年度の重点課題			
利用者の 幸せの追求	本人支援	5	①レイニールでの基本相談では定期面談のケースも持っている。面から依頼される基本相談では、その都度相談者からの困りごとに関わり、今後の方向性を整理した。 ②年間計画通り実施ができていた。巡回相談から療育利用につながったケースもあり、丁寧な基本相談支援ができた。			(相談)適切な本人支援を行うことができるアセスメント力の向上。 →チーム支援を心がけ、支援の方向性をモニタリング書式に記入する。自分たちの見立てをもつて療育機関と支援の方向性を共有していくためにモニタリング加算の積極的実施。		
	家族支援	4	①ペアレント・トレーニング計画通り実施。4名参加 ふれあいペアレント・トレーニングは参加者なしで未実施。 ②就学に関する学習会計画通り実施。 ③不登校のお子さんを育てる保護者支援座談会へのオブザーバー2回参加。 ④保護者親睦会は未実施。 (本部)⑤利用者自己負担金の件、滞納世帯の生活困難状況を確認しながら、年度末にはほぼ集金できている。			(本部)ハッピーサークル活動の中で、家族が求める支援を探り、同じ悩みを抱える保護者同士のつながりが持てるように仕掛けていく。 (相談)モニタリングや相談支援を通して、見立てをもとに家族支援の方向性を導いていく。		
	地域支援	3	①たかはし障害者総合相談センターは、今後地域拠点整備事業の中核となる話が上がっている。 ②高梁市はスクラム会議の在り方が課題となり、年1回は実施する方向で決まった。ただし高梁市の仕組みとしてはまだ不十分。 ③年2回の講演会実施(諏訪利明氏、直島克樹氏) ④プレ子ども食堂4月～12月実施のち、1月より「みんなの食堂たまり場」開始。参加ボランティア、食材寄付等(個人、企業)も増えてきた。 ⑤ホームページのメンテナンス(行事イベント、たまり場)の実施。グーグル申し込みフォーム活用など基本形ができた。			(相談)見立てをもとに、地域に必要な支援や支援の方向性を整理していく。 (相談・本部)地域課題を見据えた講演会内容の検討。 (相談)自立支援協議会に参画し、高梁市としての体制づくりを整理する。 (相談・本部)たまり場の定期開催。人と人とのつながりを大切にしたい運営の工夫。		
つどう人の 幸せの追求	成長や貢献が実感できる職場づくり	3	①職員学習会における事例検討は意見が活発化されにくい。どのように質問を引き出していくか次年度の課題である。 ②キャリアパス制度で、計画的に研修参加と学習会の中で振り返りができた。人事考課もスケジュール通りに進み、昇給につながったスタッフや昇格スタッフもいる。			(本部)学ぶ場の保証、職員自ら学ぶ姿勢を引き出せるような学習会計画の実施。 (相談・本部)日々の業務に手ごたえを感じられるよう、取組と評価が他者にも客観的にわかりやすい目標管理立案を、実行していく。		
	信頼と共感の持てる職場づくり	4	①連絡会 毎週水曜日に予定通り実施。特にレイニールや成人期のケースの進捗確認・ケアの進め方や要保護世帯への寄り添い方など確認し合う事ができた。			(本部・相談)連絡会議や支援会議の開催により情報共有の徹底。 (本部)日頃触れ合えない他事業所スタッフ同士が接点を持てる親睦会の実施。		
組織の安定と 発展の追求	継続的改善活動	5	①危機管理委員会 戦略会議で毎月実施。 ②意見、苦情、要望書の積極的活用 ※戦略会議や週1回の定例会にて協議 ③つむぎ高梁駐車場、玄関整備の実施完了(年度末より準備)			(本部)危機管理委員会をもとに、法人安全計画の整理。 (本部)利用児や職員が安全、快適に業務に従事できる環境づくりを目指すため、補助金の有効活用。 (相談)特に困難ケースに関しては、チームで支援の方向性を見立て、相談体制やつなげる機関を検討する。		
	組織の透明性	3	①SNSの有効活用はできてきた。公式ラインの積極的活用がまだ不十分。 ②仮名 発達支援ネットワーク岡山の開設に向けて 事例検討を他法人に依頼したものの今年度は参画ならず。 ③新人(大卒)スタッフは2名確保。大学・地元高校への求人活動や就職セミナーも参加。			(本部)他法人の情報発信を参照しながら、SNSの効果的な活用について情報を仕入れ、当法人にあった方法を随時検討、実施していく。 (相談)他事業所の実践発表も含め、支援を高めあう、学びあう場の確保。 (本部)卒業生を中心に積極的に大学訪問の実施。		

○評点は次のとおりとする。・5目標を達成することができた ・4おおむね目標を達成することができた ・3どちらかといえば目標を達成できた ・2どちらかといえば目標を達成できなかった ・1目標を達成できなかった

(特非)発達支援ネットワークつむぎR2.4.11～